

# 定期作況報告

(第5号 平成13年9月20日現在)  
北海道立上川農業試験場

## 1. 気象概況

8月下旬：最高気温は平年より0.8℃低く、最低気温は平年より0.2℃高かった。降水量は平年より40多く、平年対比187%であった。降水日数は平年より3日多かった。日照時間は平年より9.6時間少なく、平年対比82%であった。夏日（最高気温25℃以上）は5日間で、うち2日間は真夏日（最高気温30℃以上）であった。

9月上旬：最高気温および最低気温とも各々平年より0.8、1.3℃低かった。降水量は平年より62mm多く、平年対比192%であった。降水日数は平年より1日少なかった。日照時間は平年より1.7時間多く、平年対比103%であった。

9月中旬：最高気温および最低気温は各々平年より0.1、1.5℃高かった。降水量は平年より30mm多く、平年対比156%であった。降水日数は平年より1日少なかった。日照時間は平年より2.0時間少なく、平年対比96%であった。

8月下旬から9月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	8月下旬			9月上旬			9月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	24.4	25.2	▲0.8	22.2	23.0	▲0.8	20.5	20.4	0.1	22.3	22.8	▲0.5
最低気温(℃)	15.6	15.4	0.2	11.9	13.2	▲1.3	12.0	10.5	1.5	13.2	13.0	0.2
平均気温(℃)	19.6	19.9	▲0.3	16.8	17.7	▲0.9	16.0	15.1	0.9	17.4	17.5	▲0.1
降水量(mm)	87	47	40	130	68	62	84	54	30	301	168	133
降水日数(日)	7	4	3	4	5	▲1	5	6	▲1	16	15	1
日照時間(h)	43.1	52.7	▲9.6	52.3	50.6	1.7	42.1	44.1	▲2.0	137.5	147.4	▲9.9

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10か年の平均値。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

2. 作 況

1) 水 稲 : 平年並

事 由 : 成熟期は9月11~13日で平年より4~6日早く、登熟日数は平年より2~5日短かった。  
 m<sup>2</sup>当たり穂数は「きらら397」中苗が平年並で、「ほしのゆめ」中苗および「きらら397」成苗が平年より少なかった。一穂粒数は中苗が平年より多く、「きらら397」成苗は平年よりやや少なかった。このため、m<sup>2</sup>当たり粒数は中苗が平年並~平年を上回ったが、「きらら397」成苗は平年を下回った(平年対比90%)。一方、稔実歩合は中苗がほぼ平年並で、「きらら397」成苗は平年より高かった。この結果、m<sup>2</sup>当たり稔実粒数(m<sup>2</sup>当たり粒数×稔実歩合)は中苗が平年並~平年を上回ったが、「きらら397」成苗は平年を下回った。

品種・苗込みで見ると、穂数が少なかったためm<sup>2</sup>当たり粒数は平年をやや下回ったものの、稔実歩合が平年並以上であったため、m<sup>2</sup>当たり稔実粒数はほぼ平年並であった。また、出穂後40日目の登熟歩合も平年並以上であった。

したがって、目下の作況は「平年並」である。

表2 生育期節

品 種 苗	成熟期 (月・日)			登熟日数 (日)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397 中苗	9.13	9.19	△6	47	52	▲5
ほしのゆめ 中苗	9.11	9.15	△4	46	50	▲4
きらら397 成苗	9.12	9.18	△6	51	53	▲2

注1) 平年値は平成6~12年の7か年から平成6年と平成10年を除いた5か年の平均値。

ただし、「ほしのゆめ」は平成9~12年の4か年の平均値。

2) △・▲印は平年に比べて早・減を示す。

表3 収量構成要素および稔実歩合

品 種 苗	m <sup>2</sup> 当り穂数 (本)				一穂粒数 (粒)				m <sup>2</sup> 当り粒数(×1000粒)			
	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)
きらら397 中苗	677	685	▲8	99	51.5	48.3	3.2	107	34.9	33.7	1.2	104
ほしのゆめ 中苗	689	773	▲84	89	49.6	44.9	4.7	110	34.2	34.3	▲0.1	100
きらら397 成苗	675	722	▲47	93	45.8	47.9	▲2.1	96	30.9	34.5	▲3.6	90
品 種 苗	稔実歩合 (%)				m <sup>2</sup> 当稔実粒数(×1000粒)							
	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)				
きらら397 中苗	90.9	91.2	▲0.3	100	31.7	30.7	1.0	103				
ほしのゆめ 中苗	90.6	91.8	▲1.2	99	31.0	31.5	▲0.5	98				
きらら397 成苗	93.7	89.6	4.1	105	29.0	30.9	▲1.9	94				

注1) 平年値は表2に同じ。 2) ▲印は平年に比べて減を示す。

表4 出穂後経時登熟歩合

品 種 苗	出穂後20日目			出穂後30日目			出穂後40日目		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397 中苗	0.5	6.6	▲6.1	33.8	42.9	▲9.1	72.0	66.7	5.3
ほしのゆめ 中苗	3.0	10.9	▲7.9	41.9	51.7	▲9.8	75.2	76.5	▲1.3
きらら397 成苗	1.1	5.3	▲4.2	32.9	41.1	▲8.2	71.8	71.1	0.7

注1) 平年値は表2に同じ。 2) ▲印は平年に比べて減を示す。

3) 登熟歩合は比重1.06の塩水選で求めた。

2) 秋まき小麦

平年より4日遅い9月17日に播種を行った。

3) とうもろこし : 良

事由：収穫は平年並の9月19日に行った。収穫時の熟度は平年並で、不稔個体割合はほぼ平年並か平年より少ない。稈長が平年より30cm～50cm長く、生育量は平年より多い。  
したがって、目下の作況は良である。

表5 収穫期のとうもろこしの生育

品 種 名	稈 長 (cm)			着 雌 穂 高 (cm)			収 穫 期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
キタユタカ P3732	271	241	30	118	107	11	9.19	9.19	0
	315	265	50	154	129	25	9.19	9.19	0

品 種 名	熟 度		不 稔 個 体 割 合		
	本 年	平 年	本 年	平 年	比 較
キタユタカ P3732	黄中	黄中	8.3	9.0	▲ 0.7
	黄初	黄初	1.7	16.3	▲14.6

注1) 平年値は、前7か年中、平成10年、12年を除く5か年の平均値。

2) 平成10年度より栽植本数を7576本/10aに変更した。

3) ▲は平年より減を示す。

4) 大豆 : やや不良

事由：8月中旬までは干ばつ気味であったが、8月下旬以降一転して多雨に経過したため、倒伏の程度も更に進んだ。主茎長及び主茎節数は両品種とも平年並である。分枝数は「トヨムスメ」で平年をやや下回り、「トヨコマチ」では平年より多い。着莢数は倒伏の影響で「トヨムスメ」で平年より少なく、トヨコマチはほぼ平年並である。

したがって、目下の作況はやや不良である。

表6 9月20日の大豆の生育

品 種 名	主 茎 長 (cm)			主 茎 節 数 (節)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	65	63	2	10.2	10.4	▲0.2
トヨコマチ	66	66	0	11.1	11.0	0.1

品 種 名	分 枝 数 (本/株)			着 莢 数 (個)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	6.6	7.0	▲0.4	65	78	▲13
トヨコマチ	7.4	6.0	1.4	79	76	3

注1) 平年値は、前7か年中、平成7年(最豊)及び平成6年(最凶)を除いた5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

5) 小 豆 : 平年並

事由：成熟期は平年より3日遅れた。両品種とも主茎長は平年より長く、分枝数は少ないものの、全体的な生育は旺盛である。着莢は7月下旬から8月上旬までの低温で緩慢となり、その後気温の回復とともに開花・着莢は旺盛となったが、8月中旬は土壌が干ばつ気味となったため、落花・落莢がみられた。このため、最終的な着莢数は、7月中旬に開花・着莢が始まった「サホロショウズ」では平年をやや上回っているものの、「エリモショウズ」では平年を下回った。

したがって、目下の作況は平年並である。

表7 成熟期の小豆の生育

品 種 名	成 熟 期 (月日)			主 茎 長 (cm)			分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	9.4	9.1	3	81	57	24	5.0	5.7	▲0.7
エリモショウズ	9.8	9.5	3	76	55	21	5.1	5.5	▲0.4

品 種 名	着 莢 数 (個)		
	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	60	57	3
エリモショウズ	50	57	▲7

注1) 平年値は、前7か年中、平成12年を除く6か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

6) ばれいしょ : 平年並

事由: 「農林1号」は平年では枯凋期に達しないことがあるが、本年は8月の干ばつの影響を受け9月9日に枯凋期となった。そのため、上いも重は平年比92%と低収になった。でん粉価は平年並であった。

「男爵いも」の枯凋期は平年より9日早かったが、上いも重は平年比115%で多収となり、でん粉価もほぼ平年並であった。

したがって、目下の作況は平年並である。

表8 9月20日のばれいしょの生育

品 種 名	枯 凋 期 (月日)			上 い も 重 (Kg/10a)			
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	平年比
農林1号	9. 9	未達		5034	5486	▲452	92
男爵いも	8.17	8.26	△ 9	5099	4440	659	115

品 種 名	で ん 粉 価 (%)		
	本 年	平 年	比 較
農林1号	14.3	14.3	0
男爵いも	13.7	13.4	0.3

注1) 平年値は、前3か年の平均値。

2) △は平年より早を示す。▲は平年より減を示す。

7) てんさい : 平年並

事由: 今期は降雨量が多く、前期までの干ばつ傾向が解消された。その結果、生葉数と根周は2品種ともほぼ平年並に回復した。草丈は「モノホマレ」で平年をやや上回り、「ストーク」はほぼ平年並であった。

したがって、目下の作況は平年並である。

表9 9月20日のてんさいの生育

品 種 名	草 丈 (cm)			生 葉 数 (枚/株)			根 周 (cm)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
モノホマレ	66	61	5	32.9	31.6	1.3	33.4	33.2	0.2
ストーク	59	59	0	28.7	30.6	▲1.9	34.6	35.8	▲1.2

注1) 「モノホマレ」の平年値は、前7か年中、平成10年、11年を除く5か年の平均値。

「ストーク」の平年値は、前4か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。